

## ホンモロコ・アユ・ウナギを大いにアピール！



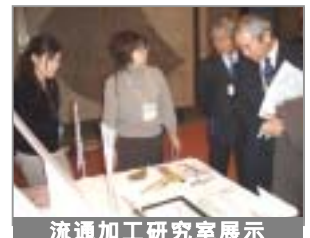
商談会場風景

2月18日 幕張メッセにおいて、「ちば大地と海の恵み商談会」が開催されました。これまでも千葉県の農畜水産物生産者と食品関連業者の相互交流や情報交換の場として見本市や商談会が開催されてきましたが、今回はさらに内容を充実させた形での開催となり、78団体の参加がありました。

水産総合研究センター（南房総市）も出展し、センター全体の業務内容や、内水面水産研究所、流通加工研究室で行っている研究についてパネル展示や実物による紹介を行いました。

### 日本初の「食品をそのまま計れる塩分計」や、唯一の生物展示が好評

流通加工研究室（銚子市）は、企業との共同研究で開発した塩分計の紹介を行いました。これはアジの開きなどの干物にセンサーをあてるだけの簡単な操作で、数秒後に製品中の塩分濃度を測定できる機器です。消費者の低塩分指向に合わせた製品開発や品質管理に役立ちます。



流通加工研究室展示

内水面水産研究所は、研究所の業務全体を紹介したパネル展示のほか、君津地区で行っている、休耕田を活用したホンモロコ養殖の取り組みの紹介を行いました。また、研究に力を入れているホンモロコ、ウナギ、アユの実物を水槽で展示しました。会場内で生物の展示を行ったブースは他になく、普段目にする機会が少ない生きたウナギやアユ、ホンモロコに来場者の皆さんの注目が集まっていました。展示した魚の飼い方や、食べ方についての質問を頂いたほか、中には、ホンモロコの購入先の問い合わせや、生産者に取材したい等の積極的な反応や、関西出身の方からホンモロコを見て懐かしくなったなどの感想を多数頂きました。



内水面水産研究所展示

水産総合研究センターや内水面水産研究所を見学したいという声も多数聞かれ、お土産用として大きめのタッパーいっぱい用意していたアワビの貝殻とパンフレットも閉会の頃にはすっかり配り終えてしまいました。多くの方に見ていただいて、PR効果も充分あったのではないかと思います。

「ご来場、誠にありがとうございました。」

## 「魚のお医者さん(魚類防疫士)」になりました！



昨年 12 月上旬、社団法人日本水産資源保護協会が行っている魚類防疫士認定試験に合格し、晴れて「魚類防疫士」として認定されることとなりました。魚類防疫士とは、簡単に言うと「魚のお医者さん」です。魚介類の病気を診断したり、投薬や飼育管理方法などの対策を指導します。病気の知識だけではなく、病気にかかる機構、有効な対策、病気にかからないようにするにはどうしたらいいのかなど、必要な知識は多岐にわたります。そのため、魚類防疫士になるには、1 年次～3 年次までの研修を受け、3 年次研修最終日の認定試験に合格すると、晴れて「魚類防疫士」として認定されます。

現在、千葉県には約 20 名の魚類防疫士がおり、知識や技術を各業務に生かしています。私も、そんな魚類防疫士の一人となるため、平成 18 年度から、研修を受講しました。

### 苦節 3 年。3 度の研修後には、試験が待っていた

私が受講した平成 18 年度の 1 年次研修は、全国から 19 名が受講しました。研修は全て研修室での講義で、普段の研究所での業務とは違って、学生の頃を思い出しました。1 年次では魚病学総論の他、ウイルス・細菌・寄生虫の各種疾病と、関係法令について勉強しました。多くの病気とその特徴を知ることは、迅速な診断に必要なことで、基本となる点です。しかし、知らない病気の名前は、どれも同じように聞こえ、症状も同じように見えてしまって、覚えるのに苦労しました。

平成 19 年度は 2 年次研修を受講しました。1 年次研修から顔の知っているメンバーが多く、同窓会のような感覚でした。1 年ぶりの再会に、近況を報告しあいながら、2 年次研修はスタートしました。

2 年次の研修は 1 年次と違い、ほとんどが実習でした。ここでは、実際に病魚から細菌やウイルスを分離したり、寄生虫の標本作製したりと、実践に役に立つ基礎的な技術を学びました。それまでの自分のやり方のどこがいけなかったのかなども、先生方に教わりながら実習することで気づきました。実習が終わると、同期の方々と息抜きに飲みに行ったり、ご飯に行ったりできる楽しみもありました。

そして平成 20 年度、研修の最終年次である 3 年次研修を受講しました。3 年次では、魚病そのものを講義や実習で学んできたこれまでとは違い、魚病以外に防疫対策を実施・指導する上で必要な、薬理学や免疫学、生理学などの講義がありました。内容は、かなりボリュームがありましたが、講師の先生方が特に重要なところを説明してくださるので、短時間で効率よく知識を得ることが出来ました。私は学生の頃、魚病は得意ではありませんでしたが、生理学は好きだったので、3 年次の研修が一番面白かったです。それと同時に、一番難しかったです...

### 晴れてホヤホヤの魚類防疫士に、でもこれからが大変

1年次から3年次の研修を通して、講師の先生方はその道のスペシャリストばかりで、お話はとても貴重なものでした。また、養殖が盛んで、毎日のように魚病診断をしているような他県の方々の話も、先生の講義と同じくらい貴重で、研修同期の方々との情報交換はとてもためになるものでした。特に、自分にとってまったく見る機会のない病気は、専門書から学ぶことより、実際に現場で魚と病気を診ている中で得られた方々のお話の方が頭に入ってきて、とてもよかったと思います。他県の方々とのつながりを得たことも、研修で得た成果の一つです。



魚類防疫士に認定されても、まだまだ経験に乏しく、勉強しなければならないことは山積みです。これから経験を積む中で、多くの諸先輩方に教わりながら、もっとたくさんのことを覚えていくように頑張りたいと思います。